

大町病院サポーターの会会報

No75

2020年1月発行

大町病院サポーターの会

発行責任者降旗剛

迎春



新年あけましておめでとうございます。市立大町総合病院サポーターの会 会長 降旗 剛

令和2年の新春を迎え、皆様方にはご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げますとともに、日頃からサポーターの会へのご支援に感謝申し上げます。会が結成し、まる10年が経過しました。

昨年を振り返ってみますと5月の総会において逝去されました故北村喜男会長の後任として任に当たることとなりました。決定された事業計画では、会員・組織の強化と拡大を図る事業については、役員の方々による入会活動を実施し新しく27団体と個人64人の新規入会をいただきました。2人の医師により順調な診療が行われていた産婦人科においては、10月に1人の医師が退職することになり産科の分娩が危ぶまれましたが、関係の方々の努力により継続ができました。

人口減少と出生数の減少により産科の維持は、厳しさが続きます。今後、会としても協力できることがあれば皆さんの力をいただき最善の努力を尽くしていきたいと思っております。

例年行っております、病院玄関前のモミの木に十日会の方々により樹木の剪定と、イルミネーション取り付けをしていただき、12月5日に井上院長と牛越市長を迎え点灯式を行いました。

11月の幹事会の折、金子一明医師から高齢、独居老人増加に伴う地域医療と健康のまちづくりについて提起がありました。福井県高浜町の事例が紹介されました。人口1万人程の高浜町に地域医療の問題を医療関係者や行政担当者にまかせっきりせず、地域の主役である住民としてできることを探し実行することを目的として「高浜地域医療サポーターの会」が設立「無理しない」「批判しない」「消滅しない」が会のモットーとのことで参考になりそうです。10年の成果を踏まえ、他のサポーターの会との交流を行い今後の会運営の参考としていきたいと思っております。病院経営改善が進み明るいきざしの大町病院のさらなる発展と会員皆様の健康を祈念し新春のご挨拶とします。

イルミネーションが点灯、コンサートを講堂さくらで

12月5日17時30分から病院駐車場にそびえる25メートルのもみの木にイルミネーションが点灯しました。点灯は牛越徹病院開設者、井上善博病院長・事業管理者、降籬剛サポーターの会会長によりカウントダウンにあわせてスイッチをいれました。あたりが鮮やかにきらめき始めました。患者、職員、市民の皆さんを元気付けてくれるでしょう。

引き続き18時から南棟さくら講堂でイルミネーションふれあいコンサートが開催され市民、会員など60人が演奏を楽しみました。出演者は：①ハンドベル：病院ハンドベル隊（女性検査技師）②：ライアー：山本美恵子と福島頼子③ジャズピアノ：金子一明 Dr④：サクソ：遠藤幸廣 ⑤ピアノ連弾：小林美恵と奥原直美の皆さんでした。

終了後出演者の慰労会を兼ねて食堂で地酒を用意して、利き酒会を開き、多くの医師の皆さんとの交流もできました。



経営改善に明るい兆し、入院患者も増加

12月市議会の審議から（要旨抜粋）

11月26日から12月17日まで12月議会が開かれました。大町病院経営に関わる一般質問の重要な部分について抜粋して掲載します。

◆大厩富義議員質問：持続可能な地域医療について

- (1) 一般会計から大町病院への1億7千万円余の貸付金は「それしか無い」との見方もあるが、将来につけを回す経営だと思いがどうか。
- (2) 大町病院の赤字原因は責任を持って経営をする経営者がいないということではないか。一刻も早く経営体制を切り替えることが必要ではないか。

◆牛越徹市長答弁：病院開設者の立場からお答えします。

(1) 平成29年度決算において、財政健全化法に定める資金不足比率が20%を上回る22%となったことで、「昨年度末市立大町総合病院経営健全化計画」を策定し、収益の確保と経費の節減の2つを柱に様々な取り組みを進めてきた。病床数を199床とし、規模の適正化を図ったほか、在宅療養支援病院施設基準の届けなどにより診療報酬上の優位性を確保し収益の増加を図った。

・経費削減は職員の皆さんの深い理解と協力のもと、職員数の適正化が図られるまでの間、緊急的な措置として人件費の抑制が行われ、診療材料費や委託料など、経費縮減に取り組んだ。この結果、計画初年度の30年度決算は、医業収支で前年度に比べ5億円余の改善が図られた。さらに本年度上半期においても前年度と同水準の医業収入が確保されており、堅調に推移している。

・本定例会に一般会計補正予算を提案し病院会計への長期貸付金を計上した、これは30年度決算審査意見書に指摘のあった、病院事業会計の資本的収支の不足額に対し補填を行うための支援として貸付を行うもので、今後流動負債が減少す



↑ 会員からの差し入れ：大根

ることにより、損益勘定留保資金などで補填が可能となる令和3年度までの、本年度及び来年度の2カ年において長期貸付を行い、補填財源の確保が図られるよう協議を進めている。

・この措置により長期経営改善を進め、経営体力にみあった長期的な返済ができるようになることが最大のメリット。これに加え、貸付金相当額の一時借入金を返済することができ、短期資金である流動負債が圧縮され、早期の資金不足額の解消が可能となる。

・また、一般会計からの貸付利率は一般会計における通常の資金運用による預託利率よりも有利となる一方、病院会計でも市中金融機関からの一時借り入れ利率よりも低利で調達できることとなり、同じ市の2つの会計相互間で資金を移動することにより、双方にメリットが生ずることとなる。

・今般の長期貸付金は同額の一時借入金の返済と合わせて行うもので、病院の借入金残高の総額が増加するものではなく、企業会計の会計処理上、必要な支援を行うものである。

・昨年度からの大幅な収支改善により、単年度収支の黒字化が図られる状況などを踏まえ、判断したことをご理解いただきたい。

◆井上事業管理者答弁

(1) 昨年度末、市議会の議決を経て策定した「大町病院経営健全化計画」は、病院再生の最後の機会として捉え、職員全員が気持ちを新たに抜本的な経営改善に取り組むことを前提とした計画。積極的に収益増加とコスト削減を図り、合わせて医療の質の向上に向けた教育研修の強化などにより地域に密着した病院として地域医療を支えていくことを基本方針としている。計画の初年度、30年度計画に基づき各種施策を実践してきたが、特に病床数の適正化や在宅療養支援病院の届出など施設の新たな基準を取得して、収益に結びつける取り組みを実践した。人件費はじめあらゆる経費の削減を進めてきたことから、・30年度決算では医業収支は前年度比5億以上の改善となり、構造的な改革を含め様々な方策の成果が現れてきた。

・しかし、資本的収支の不足額を補填するための財源として、今回の病院事業会計補正予算に、一般会計からの長期借入金を計上したが、多額の資金不足額が存在する中で監査委員の指摘事項の対策について市とも協議してきた結果である。これにより病院事業会計にとって同額の一時借入金を減額することができ、資金不足比率の改善が進むことになる。

・また、借入金の利息が軽減でき、収益的収支の黒字化が計画通り可能となる。一般会計からの長期貸付を決断いただいたことは大変有難いこと。貸借対照表においては今までの流動負債が固定負債に振り替わったものであり、実質の負債総額は変わらないことを十分認識し、引き続き経営健全化計画に沿った取り組みを着実に実行してまいりたい。

(2) 私は平成27年、病院事業管理者に就任した。29年度終わりには3年連続で赤字決算となることは明らかだったので、責任をどうとるか考えた。単にやめたからと言って責任を取ることはならないので職にとどまり、30年度様々な改善策を実行し経常収支は単年度黒字にすることができた。

・今年度上半期は、前年度よりさらに3千万円の増収となり、最近の病棟は満床に近い状況で、これは職員の一丸となって業務に取り組んだ結果である。以前より申し上げてきたが、赤字の主原因は医師不足、とりわけ内科医不足であることは明らか。経営形態を変えるだけで容易に改善するものではない。

・赤羽病院事業管理者が就任されたときの内科医は4人。私の時は3人だった。この人数で赤字を出さないようにするのは難しい。医師確保に地道に努力することにより今年度は専攻医を含めると常勤の内科医は8人、信州大学総合診療科指導医の2人を加えると内科医は10人になる。これにより病院経営が改善し、同時に地域医療の充実を図ることができるようになったことを理解していただけないことについては甚だ残念と言うほかない。



↑ 会員からの差し入れ：ネギ

◎最終日の市長閉会挨拶

井上善博病院事業管理者のもと、病院職員が一丸となって経営健全化計画に基づく収益の確保と経費の縮減に日々努力を重ね、経営健全化に向けた歩みを一步一步、着実に進めている。私自身も病院開設者として、大町病院が経営改善を一層進めてもらうため、体制や環境の整備を引き続き支援するとともに、開設者を補助する大町病院経営サポート会議で、一般行政としてどのような取り組みができるか支援策を検討するなど、開設者としての責務を果たしていきたい。

◎議案の採決結果

本会議において、「一般会計から大町病院への1億7千万円余の貸付金の計上」と「病院事業会計での借入金の計上」について反対者は、大厩富義議員、高橋正義議員、大和幸久議員の3人のみで、議案は賛成多数で可決されました。

反対した議員には何か具体的な対案があったのでしょうか。サポーターの会では議会傍聴やテレビ中継を見ながら議会の審議動向を注視してきましたが、病院経営が公営企業法の全部適用となっている趣旨に鑑み、経営健全化計画に沿って経営改善が進んでいる状況の中で、医師はじめ職員みんなの士気を高め、引き続き一丸となって取り組んでいくために、もう少し温かく見守る必要があるのではないかと強く感じました。

太田久彦副院長と田口たみさんが健康講座コラボ



12月12日、八坂公民館が主催する老人学級＝高砂で太田久彦副院長と早春譜を愛唱する市民の会で指導する声楽家田口たみさんが共同で肺機能活性化と歌うことの重要性についての学習会が開かれた。はじめに太田先生から30分間、呼吸器の機能を維持し健康を維持するための講演が行われ、続いて田口さん指導による金太郎、ふるさと、故郷を離るる歌、青い山脈、上を向いて歩こう、いつでも夢をなど歌唱曲やポピュラー曲をみんなでうたい、途中で田口さんの独唱で先ごろ作曲された百瀬慎太郎をテーマにした「山を想えば 人恋し」などを聞くなど一時間楽しく過ごしました。「お家に帰っても歌を歌って健康を維持してください。お風呂に入っても大きな声で歌を歌ってください。」

太田久彦副院長八坂講演（「肺機能・老化と運動」要旨）

○肺のつくりとはたらき

- ・呼吸は生命活動の根源・・・気体と液体のガス交換
- ・外界に開かれている・・・外気の影響を受けやすい、防御機能が発達 ⇒ アレルギー反応
- ・すべての血液は必ず肺を通る・・・全身の影響を受けやすい・・・全身に影響を与える



肺は全身の鏡、老化の指標・・・肺の働きを知ることは極めて重要

スパイロ検査・・・口から吐き出す息で肺機能を調べ、肺年齢を判断する

●肺活量：肺の大きさ ●1秒量、1秒率：
気管支の太さ

喫煙者の肺と非喫煙者の肺を比較すると1秒量は加齢とともに大きく低下する。
⇒肺機能維持のためにもタバコは止めたほうが良い



●**COPDの発症** (慢性閉塞性肺疾患)・・・

喫煙習慣を背景に中高年に発症する生活習慣病。

⇒気道が狭くなり息が吐き出せなくなる

①息切れを恐れて、寝てばかり、座ってばかり⇒②徐々に身体機能低下、息切れはもっと悪化
⇒③益々動けなくなり、食欲も落ち、気力までなくなる。⇒④風邪などを引きやすい体に

◆予防に重要なトレーニング

1、柔軟性トレーニング・・・体幹のストレッチなどは息切れを改善、運動能力を高める

2、全身持久トレーニング・・・歩行、階段昇降は心肺機能や足腰の衰えを防ぐ

3、筋力トレーニング

- ・下肢の筋力トレーニング・・・歩行や日常生活での基本となる動作に重要な筋肉を強化する。
- ・上肢の筋肉トレーニング・・・上肢の筋肉を鍛えることで息切れ等を予防する作用があります
- ・体幹筋のトレーニング・・・腹筋トレーニングなど体を支える筋肉を鍛えます。

◆腹式呼吸と音楽療法

腹式呼吸は歌うときの呼吸方法そのもの「自力の呼気、他力の吸気」が自然にできる

○腹式呼吸は息を吐ききる（横隔膜が上がる）⇒息を吸う（横隔膜が下がる）の順で行います。

○最初に息を吐ききると肺の中は空気をほとんど使い切った状態になり、意図して吸い込まなくても自然と口からも鼻からも空気が入ってきます。

○実はこれは歌うときの呼吸法そのものです。長いフレーズを一息で歌い切るときには、息を積極的に吐ききっています。そして次のフレーズに移る前には、息は吸うというよりも、やむにやまれず「入って」来ます。これを「他力の吸気」と予備意識して息を吐くことを「自力の呼気」と呼んでいます。（文責：高橋）

大町病院出前講座を自治会等で活用してください

11月の第3回幹事会に金子一明医師が大町病院と市民がもっと身近に語り合える機会としてあらゆる機会を通じて、出前講座制度を利用して医師や職員を呼んでいただきたいとの話がありました。

サポーターの会としては講演を30分程度、質問、意見交換等を30分といった懇談会形式でざっくばらんに話す機会をつくっていったらどうかということになりました。自治会の健康福祉部や健康サークルでの取り組みに大町病院の医師を呼んで話を聞いてみてはどうでしょうか。申し込みは大町病院総務課坂井課長（電話 22-0415）まで。

大町へ帰ってきてね！ 研修生、歓迎・送別会開かれる

11月18日市内で信州大学医学部5年生4人の送別会と研修に見えられた医師の歓迎会が開かれ降旗会長と高橋事務局次長が出席し慰労と感謝の言葉を述べました。

夕方6時から開始とされ、11人全員が集まって始まったのは午後7時。医師の仕事がいかにも不規則で大変なものかあらためて感じたところで

す。今回は2か月に亘って大町病院で研修を受けた医学部5年生の村松さん、杉田さん、塚田さん、関田さん、新安研修医、板木研修医、高木哲副院長、降旗会長、高橋次長と新たに研修に見えられた加藤医師が出席しての会でした。

乾杯の後出席者の自己紹介と研修の成果、感想を述べ合い交流しました。

村松 信大5年生。外科志望。朝早く7時30分からスタートし、その前に患者を診て昼もカンファレンスなど勉強になった。大学では経験できない訪問診療などを学んだ。今後の医療は患者中心に満足させられることが中心となる。今夜からは宿舎が変わり市内の旅館に宿泊する。

杉岡 信大5年生。3週間お世話になった。内科。先生に激しく口頭質問をされ鍛えられた。外科では診断、治療まで行い勉強になった。本では学べない実態で勉強になった。

塚田 大町病院は素晴らしいところが先生方だ。毎朝4時44分に起きる毎日だった。訪問診療、看護経験は良い経験となった。内視鏡のモルモット役をしたことが印象に残っている。

関田 一か月经過し残り1か月です。大学一年生。土日緊急外来を大町病院で経験した。1月より長野市民病院で勤務する。

加藤 今日から大町病院へ研修に来ました。去年アドクリで1月大町病院へお世話になった。その時の雰囲気がとても良く大町病院へ来た。現在は飯田市立病院にいます。札幌出身で父が呼吸器内科から結核の方へ移っていく姿を見て、日本全体の医療のあり方、方向性を考えていきたい。

新安 今日、自治医大から見学に4人来た。案内をして、レクチャーをした。大町病院にはサポーターの会がありその皆さんと話し合いができ、患者や市民から支えられていることを話した。

板木 塚田くん、一緒に回ってみて心配しなくて大丈夫。小児科にまわる。

研修医が多い方が楽しくでき、活気がある感じがする。



葉ぼたんが玄関に並びました

12月中旬、病院の正面玄関と南棟入り口に葉牡丹の鉢植えが並びました。玄関には大きな赤い葉ぼたんが、南棟にはおおきなピンクと小さな白い葉ぼたんが並びました。花がなくなり寂しくなる冬、にぎやかになりました。これは北沢学さんが畑で丹精込めて作ってくれたものです。無農薬のため夏場は毎日青虫退治に忙しかったとのことでした。ありがとうございました。



11月にミニ農園が店じまい

この夏南棟入り口のミニ菜園で人気のあったトマトとキュウリの棚を片付ました。大玉とミニのトマトは11月中旬まで赤く実をならせ、入院患者や市民の目と小腹を楽しませてくれました。

キュウリは医局などへ差し入れされました。



子育て日本一を目指す大町市の政策と協働の北アルプス子ども応援プラットフォーム……市民が身近に病院食堂を利用して

12月18日水曜日15時～19時、大町病院南棟でOHJ（おやつ付き放課後自習室）。中学生3人、高校生6人が勉強していきました。差し入れもあって、この日のおやつは豪華！「ルンタの風」の大場さんからはリンゴを、市社会福祉協議会の高橋さんからはフードドライブのジュースとお菓子をいただきました。サプライズはプリン12個の差し入れ。「子どもが勉強してるってのはここかい？」と訪ねてきたおじさまが、パチンコの景品だからと言ってプリンをくださり、名乗りもせずに去って行きました。カッコいい～！勉強見守りのボランティアさんも、当日の新聞を見て来てくださり、助かりました。それぞれにしっかり勉強していましたが、ときどきボランティアさんが教えている姿も見られました。子どもたちからは、今回いろいろな学校の生徒がいて励みになったという声もあり、こうした場が広がってほしいなあと思いました。次回は病院の協力を得て1月15日水曜日の15時～19時です。暖かい部屋で勉強しておやつを食べて、このお試し企画の感想を聞かせてください。みんなで居場所づくりを考えていきましょう！（ぐるったネットワーク提供）

お知らせ

冬のスキー交流会は中止し医師大町合宿への取り組みに集中します

2月22.23日、大町病院を中心に全国から医師、研修医等約50人が集まって開催される合宿で、大町市内を案内するため、今年の雪遊び交流会は中止とします。

皆様からの声をお寄せください

会員の皆様からの思いや提言、質問などをお寄せください。字数は200字程度。住所、氏名を記載の上（匿名希望の方は添え書きください。）宛先は大町市大町3130番地大町病院内（大町病院サポーターの会宛）なおサポーターの会会報は病院ホームページで「大町病院サポーターの会」を検索すると1号～74号まで見ることができます。

会費納入、新規加入・寄付ありがとうございました。（順不同・敬称略）

会費納入者 橋井弘治 横川仁 山口倫子 吉岡綾香 西沢正敏 高橋博久

★新規入会者紹介 個人会員加入者 川合由岐子 松澤貞一

団体会員加入者 (株)G・C・I (株)大系 (株)五竜 (株)フォーティセブン (有)白馬交通

寄付 大日向優子